

2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 NANO MRNA株式会社 上場取引所 東
コード番号 4571 URL https://www.nanomrna.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 秋永 士朗
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 藤本 浩治 TEL (03) 6432-4793
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	—	△100.0	△189	—	△155	—	△156	—
2024年3月期第1四半期	58	—	△304	—	△285	—	△285	—

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 △165百万円 (—%) 2024年3月期第1四半期 △267百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△2.22	—
2024年3月期第1四半期	△4.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	4,896	3,256	66.2
2024年3月期	5,071	3,421	67.2

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 3,240百万円 2024年3月期 3,405百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51	△62.0	△1,242	—	△1,192	—	△1,206	—	△17.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	70,393,158株	2024年3月期	70,393,158株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	11,429株	2024年3月期	11,428株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	70,381,729株	2024年3月期1Q	70,140,131株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(会計方針の変更に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社は、2023年1月にmRNA医薬候補及びそれに関する知的財産（IP）を創製し、製薬企業に導出することにより収益を得るという事業モデルに転換しました。当第1四半期連結会計期間において、機動的な業務執行を可能とするため執行役員会を設置し、取締役会は経営課題についてより戦略的な議論を行う体制といたしました。また、事業推進の基盤となるアクセリード株式会社及びその傘下企業、並びに株式会社IPガイアとの協業体制をより緊密なものとし、研究開発の各専門分野における人事交流を含む、よりスピーディな研究開発推進を実現しております。事業推進の協創エンジンとして、協業型、創薬バイオベンチャー型に加え、顧客からのニーズに答える形で、受託研究型が新たなモデルとして加わり、当社が持つmRNA創薬のパリチェーンを利用し、質の高いmRNA医薬の開発候補品の提供を目指します。

今後、企業及びアカデミア等のさまざまなパートナーとの共同研究開発などによりパイプラインを拡充し、創製した開発候補の製薬企業等へのライセンスアウトを進めてまいります。

(mRNA医薬パイプライン)

感染症予防ワクチン分野では、COVID-19ワクチンに加え、RSウイルス感染症ワクチンがmRNA医薬品としてFDA（米国食品医薬品局）に承認されています。それ以外にも、さまざまな疾患へ展開される中、がん治療ワクチン、遺伝性疾患治療薬、及び組織再生医薬などにおいて臨床POCが得られ、新規モダリティとして確立しつつあります。

現在当社では、組織再生領域及びワクチン領域で合計7パイプラインの研究開発を行っております。

<組織再生>

当社の変形性膝関節症に対するmRNA組織再生医薬は、感染症予防ワクチン以外では国内初とも言えるものです。組織再生領域においては、これに続いて皮膚疾患及び眼科疾患の治療薬候補の研究が進んでおります。

RUNX1 mRNA： アクセリード株式会社と共同で設立した株式会社PrimRNAにおいて、変形性膝関節症患者を対象とした医師主導第I相臨床試験に向け、規制当局と相談を進めており、治験開始を2024年度後半として準備を進めております。

RUNX1のmRNAは、軟骨の増殖・分化に関わる転写因子のmRNA医薬で、変形性膝関節症の進行抑制及び疼痛の軽減を実現する革新的な疾患修飾型治療薬となり得るものです。なお、本プロジェクトは、AMEDの医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）に採択されております。

<ワクチン>

花王株式会社との包括共同研究契約下における研究開発を推進するとともに、初期段階のパイプラインの推進及び新規課題の探索を進め、さらに既存パイプラインの研究開発推進などに取り組んでまいりました。

免疫寛容ワクチン： 花王株式会社が独自開発した免疫制御技術を用いて共同で実施した研究成果に基づき、2023年11月、mRNA医薬の創製に向けた包括共同研究契約を締結いたしました。現在、アレルギー疾患2品目、自己免疫疾患1品目、合計3品目の共同プロジェクトが進んでおります。順次、候補品を創出し、開発企業へライセンスアウトすることを目指しております。

感染症予防ワクチン： 名古屋大学発ベンチャー-Crafton Biotechnology株式会社が研究代表機関となり、AMED先進的研究開発戦略センター（SCARDA）事業に採択された感染症mRNAワクチンの研究開発が進められております。本研究開発は、mRNA医薬に欠かせないCap化技術に日本発の新しい技術を適応したものです。当社は次世代バイオ医薬品製造技術研究組合（MAB組合、神戸）などとともに分担研究機関として参画し、非臨床試験及び臨床試験を担当いたします。

(mRNA医薬以外のパイプライン)

mRNA医薬以外のパイプラインの開発も継続して行っております。

- TUG1 ASO : 脳腫瘍の中で最も悪性度が高い膠芽腫を対象とするTUG1ASOの医師主導第I相臨床試験が2024年2月に開始され、順調に進捗しております。
TUG1は、長鎖非翻訳RNA TUG1に対するASO（アンチセンスオリゴ核酸）のDDS製剤であり、名古屋大学を中心として、AMEDの革新的がん医療実用化研究事業に2期連続で採択され、臨床研究・治験推進研究事業にも採択されております。当社は、分担研究機関として治療薬の供給及び薬物動態解析などを行ってまいります。
なお、2023年8月に本課題の基盤となる2件の特許について、再実施許諾権（サブライセンス権）付独占ライセンス権を獲得し、導出活動を開始しております。
- NC-6100 : 公益財団法人がん研究会有明病院において、医師主導第I相臨床試験が実施されてきましたが、その臨床成績について、第28回日本がん分子治療標的学会に、同院の高橋俊二医師から報告されました。重篤な副作用は確認されず、安全性に大きな問題がなく、薬剤への暴露が動物試験結果よりも高い傾向が認められ、当社が保有するDDS技術YBCポリマーのヒトでの有用性が検証されました。
NC-6100は、慶應義塾大学等との共同開発プロジェクトであり、転写因子PRDM14に対するsiRNAのDDS製剤です。

上記の他、コムレクス®耳科用液1.5%（開発コードENT103）は、2023年6月からセオリアファーマにより販売されております。

(販売事業の状況)

株式会社アルビオンが販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシア ブライトニング イマキユレート セラム用の当社技術を応用した原材料を供給しております。

PRP療法を用いた不妊治療サポート事業につきましては、2024年5月に株式会社エイオンインターナショナルとの契約終了に伴い、終了しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間において売上高は一千円（前年同期は58,908千円）、営業損失は189,204千円（前年同期営業損失304,032千円）、経常損失は155,563千円（前年同期経常損失285,207千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は156,079千円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失285,772千円）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間におきまして、外国為替相場の変動による為替差益29,401千円を営業外収益に計上しております。これは主に、当社の保有する外貨建預金の評価替えにより発生したものであります。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における資産は、有価証券の減少と現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末に比べ174,612千円減少し、4,896,667千円となりました。負債は、主に未払法人税等の減少により、前連結会計年度末に比べ9,592千円減少し、1,640,298千円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少等により、前連結会計年度末に比べ165,019千円減少し、3,256,368千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期連結業績予想につきましては、主要経営指標であります売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を、それぞれ51百万円（前連結会計年度比62.0%減）、△1,242百万円（前連結会計年度営業利益△864百万円）、△1,192百万円（前連結会計年度経常利益△749百万円）、△1,206百万円（前連結会計年度親会社株主に帰属する当期純利益△780百万円）を見込んでおり、2024年5月14日の「2025年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表した通期業績予想に変更はありません。

売上高の主な内訳は、化粧品原料供給収入に係る売上等を見込んでおります。また、2025年3月期の研究開発費は、929百万円を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,077,635	3,000,363
受取手形及び売掛金	28,820	28,270
有価証券	2,200,000	1,200,000
原材料及び貯蔵品	184	184
その他	155,439	178,170
流動資産合計	4,462,079	4,406,988
固定資産		
有形固定資産	0	0
無形固定資産	0	0
投資その他の資産		
投資有価証券	357,820	348,880
その他	251,379	140,798
投資その他の資産合計	609,199	489,678
固定資産合計	609,199	489,679
資産合計	5,071,279	4,896,667
負債の部		
流動負債		
買掛金	250	—
未払法人税等	17,251	7,916
その他	469,037	468,954
流動負債合計	486,538	476,870
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,108,916	1,108,916
資産除去債務	31,992	32,067
その他	22,444	22,444
固定負債合計	1,163,352	1,163,427
負債合計	1,649,891	1,640,298
純資産の部		
株主資本		
資本金	142,465	142,465
資本剰余金	5,522,905	5,522,905
利益剰余金	△2,151,507	△2,307,587
自己株式	△27	△27
株主資本合計	3,513,835	3,357,756
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△108,180	△117,120
その他の包括利益累計額合計	△108,180	△117,120
新株予約権	15,732	15,732
純資産合計	3,421,388	3,256,368
負債純資産合計	5,071,279	4,896,667

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	58,908	—
売上原価	7,926	—
売上総利益	50,982	—
販売費及び一般管理費	355,014	189,204
営業損失(△)	△304,032	△189,204
営業外収益		
受取利息	3,225	4,411
為替差益	25,828	29,401
営業外収益合計	29,054	33,813
営業外費用		
新株予約権発行費	9,904	—
雑損失	324	172
営業外費用合計	10,229	172
経常損失(△)	△285,207	△155,563
特別利益		
固定資産売却益	1,351	—
特別利益合計	1,351	—
特別損失		
固定資産除売却損	0	—
減損損失	1,044	—
特別損失合計	1,044	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△284,900	△155,563
法人税、住民税及び事業税	871	515
法人税等合計	871	515
四半期純損失(△)	△285,772	△156,079
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△285,772	△156,079

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純損失(△)	△285,772	△156,079
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18,755	△8,940
その他の包括利益合計	18,755	△8,940
四半期包括利益	△267,016	△165,019
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△267,016	△165,019
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)及び、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	28千円	一千円